

地元住民と一体となった護岸工事の取り組み

宮崎県土木施工管理技士会
旭建設株式会社
労働安全衛生部次長
河野 義博
Yoshihiro Kawano

1. はじめに

工事概要

- (1) 工事名：平成23年度社交水防第5-1号
耳川立縫地区護岸工事
- (2) 発注者：宮崎県日向土木事務所
- (3) 工事場所：宮崎県日向市美々津町立縫地内
- (4) 工期：平成23年12月26日～
平成24年9月30日

主たる工事内容

掘削工 $V=730\text{m}^3$ 、既設擁壁取壊し $V=220\text{m}^3$
遮水矢板工（鋼矢板Ⅱ型w） $N=267$ 枚
特殊堤護岸工 $V=667\text{m}^3$
フラップゲート設置工 $N=4$ 基
排水工1式、接続柵2基

2. 現場における課題・問題点

本工事は、工事設計段階で地元住民や有識者で組織する耳川河口部景観フォローアップ会議（以下MKF会議）という組織があった。

このMKF会議は、耳川河口部の特殊堤景観デザインを地元ワークショップにより決定するために設置された組織であり、決定事項として、日向市または入郷地区の杉間伐材を使用した型枠を用い、特殊堤護岸表面に杉板模様を表現させるというものであった。このため、地元住民との円滑な関係を築いて行くとともに地元・MKF会議の有



図-1 耳川河口部フォローアップ会議の様子

識者・発注者・施工者が一体となって工事を進めていく必要性があった。

3. 工夫・改善点と適用結果

- ①現場の状況を報告する機会を多くするため、地元自治会に区民として加えてもらった。この事で、地元住民の方から気さくに声をかけて頂け



図-2 立縫区定例自治会での工事状況説明



図-3 立縫スケッチ大会の様子

るようになった。

毎月1回の定例自治区会で工事状況を説明し、地元住民の協力が得やすい環境ができ、立入禁止箇所の周知が容易にできるようになった。

- ②春休み期間中の地元の子供たちを現場に招き、工事現場の機械や工事関係者との触れ合いにより、成人し他県に行ったとしても、地元への愛着を持ってもらう事を目的に、現場スケッチ大会を開催した。この時の様子は、日経コンストラクションにも取り上げられ、地元でも大きな反響があった。
- ③環境美化と地域住民との交流を目的に工事期間中、毎月1回合計7回にわたり、地元・発注者・施工者の3者で現場に隣接した美々津漁港や美々津海岸の清掃ボランティアを実施した。
- ④②で紹介したスケッチ大会の時に子供たちが集めた美々津海岸の石を使用し地元・発注者・施工者一体となりマイストーンイベントと題して



図-4 美々津海岸清掃ボランティア活動

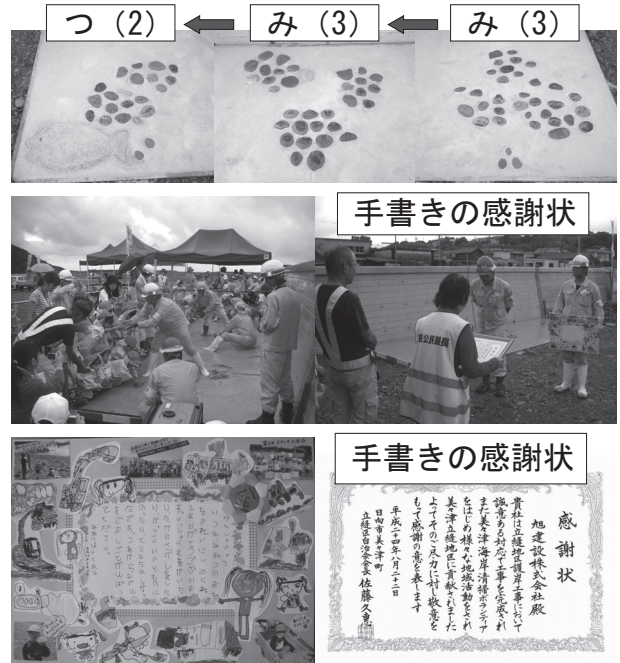


図-5 マイストーンイベント・現場完成お披露目

特殊堤護岸工足元のコンクリート張り工に自然石を使用したデザイン試験施工を実施した。

このデザインは、美々津（みみつ）3・3・2を自然石で表現したデザインである。

このイベントは現場完成お披露目を兼ねており、イベントの最後に、サプライズで地元自治会及び保育園児から感謝状を頂いた。

4. おわりに

今回の工事は、地元住民の方々にとっては、自分たちが設計に参加した護岸堤防がどのように出来上がっていくのかという注目度が非常に高い工事であった。施工の段階で地元住民が参画することで、うまく交流が図れ、苦情はゼロであった。地元からの要望についても現場で生の声を聞き、その都度解決していくため、工程が遅れることもなくスムーズに工事完成することができた。また、地域の子供たちを現場内に毎月のように招き入れる事で、立入禁止場所を覚えてくれ安全面で非常に有効であった。これらの取組みは、すべて施工者側からの提案・主催で実施したものであるが、参加者全員の協力により実現したものである。

関係者各位に感謝申し上げます。